

齋賀医院壁新聞

文献情報と医院案内 齋賀医院ホームページに戻る場合戻るボタンをおしてください

検索ボックス

[<< 米国予防接種スケジュール・2020年版 | TOP | 長期的観察においてもプロカルシトニンの効果はない? >>](#)

2020年02月12日

<< 2022年08月 >>

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

最近の記事

- [\(08/17\)4回目のプスター接種・イスラエルからの報告\(遅ればせながら\)](#)
- [\(08/12\)駆出率の保たれている心不全には塩分制限は、ほどほどに](#)
- [\(08/10\)コロナとインフルワクチンの同時接種での副反応、ファイザー製vs.モデルナ製](#)
- [\(08/10\)日本感染症学会よりインフルエンザ対策の提言](#)
- [\(08/09\)運動は週末だけでもよい](#)

最近のコメント

- [ネット情報・8月5日 by \(08/06\)](#)
[オミクロン株の変異の猛威 by \(07/21\)](#)
[オミクロン株でクルーズ症候群は起きるのです。その2 by \(06/06\)](#)
[糖尿病治療薬GLP-1作動薬と胆嚢疾患 by \(04/26\)](#)
[4回目の接種・イスラエルからの2つの報告 by \(04/26\)](#)

タグクラウド

カテゴリ

- [小児科\(223\)](#)
- [循環器\(249\)](#)
- [消化器・PPI\(148\)](#)
- [感染症・衛生\(281\)](#)
- [糖尿病\(128\)](#)
- [喘息・呼吸器・アレルギー\(100\)](#)
- [インフルエンザ\(106\)](#)
- [肝臓・肝炎\(62\)](#)
- [薬・抗生剤・サプリメント・栄養指導\(51\)](#)

ゾフルーザは季節性インフルエンザ治療に使うべきではない 菅谷憲夫氏の提言

ゾフルーザは季節性インフルエンザ治療に使うべきではない 菅谷憲夫氏の提言



以前より、インフルエンザにおけるオピニオンリーダーの菅谷憲夫氏がゾフルーザに関して懸念を表明していましたが、今回雑誌小児科に同氏の提言が載っていましたので纏めてみます。

- 最近になって、ゾフルーザの耐性ウイルスが問題となってきたが、実際には治験時から高率に耐性が発生することは明らかであった。治験の成績で、成人ではA香港型(H3N2) インフルエンザに対して9.7% (36/370) H1N1p1m09に対して2.2% (4/182) 小児ではA香港型で23.4% (18/77) に耐性ウイルスが検出された。
- 耐性が出た患者では、罹患期間が延長することが治験で証明されている。成人では耐性がない患者での罹患期間は49.6時間で、耐性が出ると63.1時間まで延長するが、プラセボ患者群の80.2時間と比べると短縮していた。
- 実際、ゾフルーザ治療歴のない患者数例から138T 耐性ウイルスが検出され、耐性ウイルスが周囲から感染発病したと考えられた。
- 重大な副作用はみられないとされてきたが最近になり出血が報告され、厚生労働省によるとゾフルーザを飲んだ後、血便や血尿など出血がみられた症例が計25例あり、このうち13例は因果関係を否定できなかった。
- ゾフルーザの利点としては (存在価値) 欧米では発症してから4~5日目以降の重症例の入院が多く、その時点から開始するオセルタミビル治療は十分な効果が期待できなかった。季節性インフルエンザの重症例には、ゾフルーザとオセルタミビル併用の有効性が期待されている。オセルタミビルはゾフルーザの138T 耐性変異ウイルスに有効であり、一方のゾフルーザはオセルタミビル耐性ウイルスに有効なので、併用することにより双方の耐性を抑えることが可能であり相乗効果も期待されている。現在ロシュ社が中心となり世界的に併用療法の治験が進行中で、オセルタミビルの連日投

[脳・神経・精神・睡眠障害\(47\)](#)
[整形外科・痛風・高尿酸血症\(32\)](#)
[ワクチン\(76\)](#)
[癌関係\(11\)](#)
[脂質異常\(28\)](#)
[甲状腺・副甲状腺\(19\)](#)
[婦人科\(10\)](#)
[泌尿器・腎臓・前立腺\(41\)](#)
[熱中症\(7\)](#)
[日記\(23\)](#)
[その他\(81\)](#)

過去ログ

[2022年08月\(10\)](#)
[2022年07月\(13\)](#)
[2022年06月\(15\)](#)
[2022年05月\(15\)](#)
[2022年04月\(14\)](#)
[2022年03月\(15\)](#)
[2022年02月\(14\)](#)
[2022年01月\(16\)](#)
[2021年12月\(14\)](#)
[2021年11月\(17\)](#)
[2021年10月\(17\)](#)
[2021年09月\(13\)](#)
[2021年08月\(16\)](#)
[2021年07月\(12\)](#)
[2021年06月\(16\)](#)
[2021年05月\(16\)](#)
[2021年04月\(14\)](#)
[2021年03月\(18\)](#)
[2021年02月\(19\)](#)
[2021年01月\(16\)](#)
[2020年12月\(17\)](#)
[2020年11月\(15\)](#)
[2020年10月\(17\)](#)
[2020年09月\(19\)](#)
[2020年08月\(14\)](#)
[2020年07月\(17\)](#)
[2020年06月\(14\)](#)
[2020年05月\(21\)](#)
[2020年04月\(18\)](#)
[2020年03月\(18\)](#)
[2020年02月\(18\)](#)
[2020年01月\(19\)](#)
[2019年12月\(14\)](#)
[2019年11月\(15\)](#)
[2019年10月\(18\)](#)
[2019年09月\(18\)](#)
[2019年08月\(14\)](#)
[2019年07月\(14\)](#)
[2019年06月\(16\)](#)
[2019年05月\(14\)](#)
[2019年04月\(18\)](#)
[2019年03月\(19\)](#)
[2019年02月\(19\)](#)
[2019年01月\(15\)](#)
[2018年12月\(16\)](#)
[2018年11月\(20\)](#)
[2018年10月\(20\)](#)
[2018年09月\(18\)](#)
[2018年08月\(24\)](#)
[2018年07月\(18\)](#)

以降はカテゴリーで検索してください。

与とゾフ

ルーザの4日ごとの投与、オセルタミピルの連日投与とプラセボ4日ごとの投与群での臨床効果が比較検討されている。
(以上すべてコピペ)

私見)

生来、未練がましい私としましては、ゾフルーザを特定の患者さんに今シーズンも投与していました。

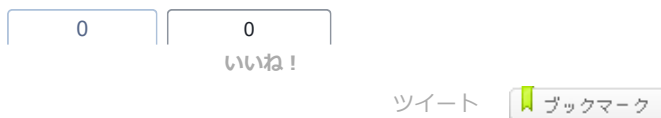
以前のブログでも紹介しましたが、基礎疾患のある成人の方や、喘息や肺炎を合併している場合で短期

での勝負をしたい時に先ずゾフルーザを処方して、翌日好転が見込まれないと判断したら電話診療にて

タミフルを追加処方する考えでした。

運よく本院では、ゾフルーザ処方の患者さんは全て順調な回復であったようです。

今後も実地医家では、最初より併用療法は難しいと思いますので上記の方針で参ろうと存じますが？



【インフルエンザの最新記事】

[今季のインフルエンザワクチンの推奨](#)
[インフルエンザ流行状況・12月27日現在..](#)
[小児におけるインフルエンザと新型コロナ](#)
[今季のインフルエンザ・ガイドライン](#)
[インフルエンザの迅速診断は家庭でも可能](#)

posted by 齋賀一 at 18:52 | [Comment\(0\)](#) | [インフルエンザ](#)

この記事へのコメント

